

市内3つの会場で、成人式が行われました



1月13日、文化会館・田沼中央公民館・葛生あくとプラザの3会場で成人式が行われました。

佐野市では、式の運営は新成人で構成された企画運営委員により行われており、第1部の式典が厳かに行われたあとは、第2部として、それぞれの会場で抽選会やビンゴ大会などが行われ、各会場とも笑い声と笑顔のあふれたイベントとなりました。

式を終え、会場から出てきた成人たちは、久しぶりに顔を会わせた友人たちと声を掛け合いながら記念写真を撮りあったり、小学校時代のタイムカプセルを開封したりして、人生の節目となるこの日を思い思いに楽しみました。

新成人は「責任感を持って成長していきたいです」「今後は親孝行していきたい」などと、真っ直ぐな瞳でいきいきと話してくれました。



石井琢朗さんのトークショー＆野球教室

1月12日、佐野市出身の元プロ野球選手・石井琢朗さんのトークショーや野球教室が行われました。

文化会館ではプロ野球現役引退と広島東洋カープ1軍コーチへの就任を記念したトークショーが開催されました。会場に訪れた約800人の観衆を前に、佐野で過ごした少年時代や現役時代の思い出などをユーモアを交えて披露しました。

この日のトークショーでは、佐野ブランド大使・ダイヤモンド☆ユカイさんも駆けつけ、佐野ふるさと特使である石井さんと佐野の魅力などを対談。最近、佐野に住みだしたユカイさんと、佐野を外から見ている石井さん、それぞれの視点で話を交わしました。

また、午後には佐野駅前交流広場で、小学生を対象に野球教室が開催されました。石井さんはボールの投げ方やゴロの取り方、走塁・打撃の基本などを丁寧に指導。「プロの練習でもこうした基本の練習から始める。基本の練習をしっかりとってください」と子どもたちに話しました。



プロ生活で通算2,432本もの安打（歴代第11位）を放つなど、数々の偉業を成し遂げ、惜しまれつつ現役を引退した石井さんは、今シーズンから広島東洋カープの1軍内野守備・走塁コーチに就任し、指導者として更なる活躍が期待されます。また「佐野ふるさと特使」して、引き続き佐野市のPRにご協力いただく予定です。

「広報さの」をお手伝いいただく 市民記者を募集します

「広報さの」では、この「まちの話題」のコーナーなどで、市民記者の皆さんからお寄せいただいた記事を随時掲載し、地域の身近な話題を紹介しています。

この度、平成25年度からの市民記者を募集しますので、興味をお持ちの方はぜひご応募ください。

- ▶対象 市内にお住まいの20歳以上の方
- ▶定員 若干名(15人まで)
- ▶任期 平成25年4月から平成27年3月まで
- ▶内容 地域情報や話題の提供、広報さのへの記事の提供など
- ▶その他

- ・ 個人の宣伝、営利目的、政治的活動、その他不適当と判断されるものは掲載できません
- ・ 報酬はありません

■申込 2月28日(木)までに、電話で、
広報広聴係 ☎(20)3037へ
※住所・氏名・生年月日をお知らせください



市民記者になって、
身近な地域での話題や情報
をお知らせください



佐野市消防団出初め式
が開催

1月6日、新春恒例の佐野市消防団出初め式が、市役所建設予定地南側、県道桐生・岩舟線の佐野駅前交差点付近を会場に実施されました。

この出初め式は、市民の安全を守る消防団員の士気の高揚と、充実した装備をご覧いただくことを目的に、毎年1月に開催しています。今年も消防団員約500人、ポンプ車やはしご車など消防車両60台が参加して、壮大な街頭行進が行われました。

また、女性防火クラブ、幼年消防クラブおよび少年少女消防クラブの行進も行われ、沿道の皆さんに「火の用心」を呼びかけました。

ほかに、とび職組合によるはしご乗りや、佐野消防署員によるはしご車からの降下訓練も披露され、沿道につめかけたたくさんの観客から、大きな拍手と歓声がわき起こっていました。



佐野市
ばんざい

ご飯のおかずを
アセモンといた

主食(ご飯)に添えて食べるものを共通語で、おかず・お菜(おかざい)・副食物などといいます。佐野方言ではアセモン・アセ・カテ・ハシヤスメなどといいます。「戦時中はアセモンがネー(ない)もんだから、ベントバチ(弁当箱)にはいつも梅干し一個。これが麦飯の真ん中にのせてあったもんだから、ヒノマルベントー(日の丸弁当)なんて言ったわけねー」

主食には数種類のおかずを取り合わせるので、これらの食べ物を「合わせ物」といいましたが、これが訛(なまり)ってアセモンとなり、さらに省略してアセともいうようになりました。

うどんやそばなどには、ゆでた白菜、ほうれん草・大根などを添えて食べますが、これらのものはカテといえます。

「そばのカテには、ナンツツタツテ(何といつても)ゆでた菜っ葉が大根ダンベねー。これがあると余計に食べられツカンネー(るからね)」

ご飯の量を増やすために、粟(あわ)・稗(ひえ)・麦・芋などを混ぜて炊いたものを共通語で糀(かた)といいました。この意が転じて、ご飯に添えるおかずをカテというようになりしました。ハシヤスメ(箸休め)は、元来食事の途中で気分転換させたり、味覚を新鮮にするための簡単なつまみ物をいいましたが、のちになって、一般にいうおかずをいうようになりました。

(市民記者 森下喜二)